

1. 計画の中で「その人の障害特性や情報が共有できている」好事例

◎相談支援専門員から
<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画や事業所からの評価でご本人の様子が把握できる。 ・相談支援専門員が使用しているモニタリング様式を元に各事業所にサービス事業所からの意見を記入してもらっている。 ・GHで他のサービスを検討しなければならない状況などがあり、福祉サービス以外の医療サービスなどの繋ぎもできた。 ・体重増加が顕著な方について短期入所の利用を開始し、そこで体重コントロール、見える評価をしてもらい改善することができた。 ・福祉サービス以外の金銭面の問題、人間関係トラブルなども課題であったため、アセスメントし、共有して全体の状況を理解できた。 ・相談支援専門員が社会人野球をやっている、本人がマネージャーとして関わるようになり、社会性につながられた。 ・現状だけでなく、その人の先を見据えた話し合いをしている。 ・モニタリング会議で家族の思いを共有できてチームで理解した。家族も喜んでいた。 ・相談員が把握できない特性や課題を、より利用者と接する機会の多いサビ管が気づき、共有することで計画に活かすことができた。 ・モニタリング時期以外に利用者と個別に面談する機会をつくっている。 ・個別支援計画で半年ごとの評価をいただいている。
◎サービス管理責任者から
<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の様子、ADLなどをモニタリングで報告する。 ・サービス利用開始時は、医療機関からの紹介が多い中で、GH入居についてご本人が積極的ではない事がある。ご家族からの紹介のときには、できるだけご本人の意向を確認するように心がけている。 ・一人暮らしの希望があることを相談員と共有、相談員が主になりサテライトをすすめていくことができた。 ・好きな歌謡曲の情報を共有したので、レクや活動に取り入れたことで笑顔が増え相談支援専門員と共有できた。それぞれの計画に反映できた。 ・本人の状況が見えない部分があり、家族からの意見、状況、健康面（便秘）、自宅環境の情報を収集、共有することで、チームとして改善の提案ができた。 ・個別支援会議録やモニタリング会議録等、資料を渡して情報共有している。 ・相談支援専門員のアセスメント情報が細かくて、個別支援計画を作る時に助っている。 ・サービス等利用計画を参考に個別支援計画を作成している。 ・高齢化が進んでいくと介護状態となり、世話人だけでは対応が困難になる。相談支援専門員とモニタリング会議で外部のサービス利用の検討がされ支援が進んでよかった。

2. 1に関してできそうなこと、できたらいいなと思うこと（アイデア）

<p>◎相談支援専門員から</p> <ul style="list-style-type: none">・個別支援計画を受け取ることが難しいことも多いので各事業所と関係作りをする。・個別支援計画書作成後、1～2か月以内には相談支援専門員に提出してもらうなど期限を決めると双方で忘れる事がない。・個別支援会議、評価の時、相談員にも声をかけてもらえたらありがたい。（2件）・相談員が個別支援会議に参加して情報共有する。・サービス管理責任者だけでなく、担当支援員が参加してもらえたよい。（3件）・多方面の関係者みんなが揃って会議が難しい場合がある。情報が多い事業所からは会議で聴き取りをし、他は電話での聴き取りや紙ベースで照会を依頼し情報を得る。・計画相談（モニタリング）と個別支援計画を作るタイミングを合わせる。・事業所が情報を多く持っているので、PCやグループLINEなどで相談員と共有できるとニーズが見出しやすい。（3件）・モニタリング報告書や会議録をしっかりと記入することで、役所側から提案や関係する他機関への繋ぎの情報を得る。・利用者も相手によって言うことが違うことがあるので支援者とも連携をとる。・児童の場合は保護者のニーズが優先されるが、本人のニーズもひろう。・本人の気持ちがコロコロかわり定着できないときは、市の担当者やケースワーカーなど関係者も含めて情報共有をする。・定期のモニタリングでしか行けていなかったのを、時間を調整して、施設やGHに行く。・時間に余裕をもって利用者さんと向き合えるようにする。
<p>◎サービス管理責任者から</p> <ul style="list-style-type: none">・日頃から課題が出たときに情報共有できるように相談員に連絡する。・サービス等利用計画と個別支援計画に違いが出てきたらモニタリング会議で調整する。・サービス利用計画を現場スタッフとじっくり共有する。・個別支援計画を相談支援専門員に提出する。・コロナ禍で厳しい状況もあったが、日中活動の様子等を相談支援専門員へ情報提供する。・生活の場なので本人の様子がわかる場、相談員に来てもらえたら情報共有ができる。意見交換ができるといい（3件）。・それぞれの会議録を提供する。・以前の資料に目を通すこともあるが、今の関りの状況、聴き取り等をして情報収集する。・施設やグループホームなどは、利用者の支援をしている支援員も入って支援会議をする。

◎その他 課題（困っていること、提案、気づき）

・サービス提供するなかで、問題があったときに対応に困ることがある。ご本人と相談支援専門員の相性が悪い場合もあったりする中で、どのように対応したらよいか困る。

→ ぴあリンク奄美や行政（市役所担当課）を含め、相談することや会議に出席してもらうこともできるのでは？

・個別支援計画がもらえる、もらえない、ということがある。提出のタイミングをはずしてしまって、もらいそびれたり、渡しそびれたりすることがあるのかも。モニタリング会議を開催したら、1, 2 か月以内に渡すとか、ルール作りみたいのがあると早く共有できる。

・個別支援計画書を相談支援専門員に渡さないといけないと知らなかった。これまで渡してなかった。

以上